

7 理事挨拶



会長 安東 道正

平成21年、38年間勤務した製薬会社を定年退社して稲城陶芸教室（現、陶芸クラブいなぎ）を開業し、12年が経過しました。

定年延長を断り陶芸教室を開業するのに家内の反対があり悩みました。その頃順調だった会社をたたみ自分の趣味であるオーダーメイドの自転車を作る会社を立ち上げた社長の話をラジオで聞きました。妻の猛烈な反対がありました。が「夫のロマンは、妻の不満」と自分の意思を通し立ち上げました。前より生活が苦しくなりましたが

妻の理解も得て満足な人生を送っていると話しました。その言葉に励まされ定年退職した次に日から陶芸教室をスタートさせました。

平成24年、稲城市民文化祭・芸術祭に出展しました。翌年、稲城市芸術文化団体連合会（芸文連）に入会し、市民活動に参加するようになりました。

平成27年、稲城市友好都市提携検討市民会議が立ち上がり芸文連の代表として参加しました。

交流協会の活動に参加してロータリークラブ、青年会議所、商工会、農業委員会、体育協会、ソロプチミスト、PTA連合会など多くの会の方と交流しました。長年勤務した会社組織の自分と地域で活動している方々の考え方に違いがあることに気づかされました。

多少の違和感はありませんでしたがイノベーションに必要な条件として、若者・馬鹿者・よそ者と割り切り自分の意見を述べました。この条件のよそ者・馬鹿者は該当しますが、若者を語るには定年退職した

自分の年齢には無理がありました。市民活動に参加して間もないことから活動をする上では、若者であると割り切りました。

そして、市民活動に関わって38年間務めた会社で教わった知識やノウハウが役に立つことに気づかされました。人の前で話をするのと、文章を書くこと、人との接し方、多くのことを教えてもらい、それを力に活動できていると思います。改めて会社には感謝しています。

また、市民活動を行うにあたって多くの方々からの温かい言葉、支え、そして叱咤激励があったからこそ、ここまでやってこられたのだと思っております。私の人生の分岐点ともいえるべき退職が人生の新たなスタートとなりました。

たくさんの方々への感謝の気持ちを糧にこれからも稲城の市民活動の発展に邁進していく覚悟です。



副会長 中井 敏生

20数年前、緑豊かで子育てがしやすい環境に惹かれ稲城市に転入し、途中約7年間の海外赴任がありましたが、都心に近く程よい田舎である稲城は居心地が良い街であると感じています。ただ、以前住んでいたマンションの自治会長を持ち回りで2年間務め、また地域の夏祭りの手伝いをした他には、特に地域に貢献した活動は正直出来ておらず、まさに稲城は自分にとってはベッドタウンという意味以上の位置付けにはなっていませんでした。3年前に30年勤務した会社から転職したのを契機に、自分自身の国際経験を活か

る活動に積極的に取り組もうと考えていたところ、広報いなぎで交流協会運営準備会委員の公募が目にとまり応募し準備会委員に加わり、その縁で昨年9月の協会発足時に副会長を拝命致しました。

昨年7月に念願の米国カルフォルニア州フォスターシティとの海外姉妹都市締結の締結式にも立ち合うことができ、協会として姉妹都市交流を着実にまた今後息長く継続させていく大きな責務を感じております。多くの自治体には国際交流協会という組織があり、海外姉妹都市や在住外国人の方々と

の交流活動を活発に取り組んでおられますが、稲城市のユニークなところは、国内外の姉妹友好都市を基軸に、様々な交流活動を展開するところであると考えています。

外姉妹都市の方々や市内在住外国人の方々との交流を通じた海外の文化や多様性を知る活動や、国内姉妹友好都市の方々との交流を通じた日本国内の様々な地方の文化や多様性を知る活動を、交流協会の活動で提供できるようにしていきたいと思っております。



理事・海外交流委員長

岡田 昭人



稲城に開いた世界への窓
米国フォスター市との

姉妹友好都市交流

皆様こんにちは！私は当協会の海外交流委員会で委員長を務めております。主に稲城市と米国カルフォルニア州フォスターシティ市との姉妹友好都市交流事業を担当しております。令和3年7月27日、オンラインによる調印式が開催され、相互間の国際交流がはじまりました。将来的には両市の子どもたちを対象とした交換留学の実

現、英語のEメールによるペンパルプログラムや都市紹介動画の作成などを通じて相互的な文化理解と友好関係の構築に取り組んでいます。

私は東京外国語大学で20年以上にわたって教職に就いております。専門は比較教育学・異文化コミュニケーションで、世界約30か国から集まった留学生と日本人学生が同じ教室で学習するプログラムを担当しております。授業は全て英語です。授業中、欧米圏の学生は積極的に発言しますが、日本人学生はいつも控えめです。

私自身も20代の頃、アメリカに3年、イギリスに4年間、留学した経験があります。留学生活では毎日何冊も英語のテキストや論文を読まなければならず、睡眠時間を削って勉強しないととても授業にはついていきません。また英語ネイティブの教授やクラスメイトと同等に討論することが求められました。私の拙い英語力では到底かなうものではなく、悪戦苦闘の

連続でした。

ですがそこから得るものがありました。

「分からない、できないことがたくさんある。でもそこで懸命に努力している自分自身がいる」という経験です。今思えば、留学経験によって「知らないということを知る」ことや「忍耐力」が身についたと思います。

Let a pretty child travel (かわいい子には旅をさせよ)ということわざがあります。

英語の「トラベル(travel)」の語源は、古いフランス語の「トラバール(travail)」であって、なんと意味は「苦しみ」です。若いうちに異文化に触れ、海外の人々とコミュニケーションがうまく取れない経験をするのはきっと将来に向けた大きな成長の糧となることでしょう。稲城市とフォスター市との国際交流が皆様と世界をつなぐ最初の「窓」になることを期待しています。



理事・国内交流委員長

小沢 重郎

令和2年秋の、姉妹友好都市交流協会の設立に伴い、国内交流委員長を承りました小沢です。

私は、東京都中野区に生まれ、入学した江古田小学校が東京都の音楽教育モデル校だった事で、小学校2年生で選ばれて合唱団に入団してから今日まで、学校・職場・地域の合唱団での活動を通して、コンクールや国内・海外演奏旅行などの様々な経験を積んで参りました。

稲城の前に住んでいた府中では、スイスのローザンヌの合唱団を府中市に迎えての合同演奏会に

出演して、翌年は府中の合唱団がローザンヌ大聖堂で合同演奏を行い、交流会や観光等と楽しい日々を過ごす事が出来ました。その後、府中市がオーストリアのウィーン市ベルナルス区との姉妹都市締結した際には、公募合唱団の一員として現地での演奏会や交流会に参加しました。また府中市のバスを借りて「けやき平和コンサート」が、東北大地震の福島県の被災地訪問を行った際も、私は既に稲城市民でしたが、役員として参加いたしました。

このような形での市民団体の交流は音楽のみならず、文化・スポーツ団体でも可能だと思います。今はコロナ禍の為に、イベント実施が難しい状況ですが、市内の文化・体育団体に国内3市町村との交流の可能性のアンケート調査と、先方には年間行事の予定や受け入れ体制等の情報照会をしております。

コロナ禍が終息した際には、交流事業が実施できる様に準備を進

めて参りますので、会員の皆様には、まずは様々なアイデアをお寄せいただきます様、ご協力をお願い申し上げます。



理事・地域交流委員長

藤田 佑二

稲城国際交流の会に入ってから約30年、その間アメリカ・バーモントのフォーキッズやユージン市、そして中国の稲城県と交流を続けてきたが残念なことに、今も交流を継続しているかといえど継続はしていません。海外の都市と友達になるという事は、そのやり方によってグローバルな社会の中での生き方、いろいろな学ぶ点があると

思います。

今回アメリカ、フォスターシティ市との交流が締結されたことは大変に喜ばしいことだと思っています。お互いがウィンウィンの関係を築いていければ良いと感じます。そのためにはお互いが信頼関係を持ち密度の高い情報の交流が要るわけで、これからの活動次第で交流協会の評価が試されることとなります。

言葉を変えていえば、我々市民が多様な市民活動を行う事が出来るか、世界に関心をもつ人を増やせるかが重要だと考えています。今後もグローバル世界の中で生きていかねばならない日本、グローバル社会を避けては通れないという認識をもつことはとても重要です。異文化を受け入れ、多文化共生による心豊かな市民生活の向上を

追及するというのは交流協会のみ

ならず国際交流の会だって、日本語の会だって考えは同じはずですよ。そこでみんなが協力し合って活動するというのが重要です。偶々私はそれらの団体のメンバーでもあるのでお互いがよい関係を繋げられないか、そんな気持ちでおります。外国人と日本人が融合する、これは在住外国人に対して目をつける事が必要だということです。その観点から私は地域交流委員会に目を向け活動していこうと考えました。今回の交流協会の組織は海外交流委員会も加わって三つの委員会がお互い機能すれば面白いものが生まれるかもしれないと思っています。小生なんの力もありませんが力いっぱい頑張ってみたいと思っています。よろしくお願いたします。

姉妹友好都市交流を通じて 稲城を住みやすい街に



理事 今泉 浩史

皆さん、こんにちは。

令和3年5月8日の定時総会で理事を拝命いたしました、今泉浩史です。よろしく願いたします。

まずは、令和3年7月27日に稲城市とフォスターシティ市との間で、姉妹都市提携締結式が実施されました。新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの開催になりましたが、この締結式をZOOMウェビナーで見ながら、無事に締結式が実施されたことを非常に喜ばしく思います。

稲城市姉妹友好都市交流協会は、稲城市民と姉妹都市及び友好

都市の市民との相互交流を推進することにより、多文化共生による心豊かな市民生活の向上及び地域の活性化に寄与することを目的としています。稲城市民と姉妹都市の大空町、フォスターシティ市、友好都市の相馬市、野沢温泉村の方々との相互交流を推進し、この目的を達成するためにどうすればよいのか？現在、市内小中学生の子どもたちは、大空町とホームステイ交流を、野沢温泉村とキャンプやスキー教室などの体験学習といった交流事業を行っていています。その他にも交流事業を行っています。その他にも市民一人一人が姉妹友好都市を身近に感じ参加しやすい交流も考えていきたいと思っています。現在の新型コロナウイルスの影響は、従来のように実際に会って交流を行うことが難しい状況を作り上げてしまいました。しかしながら、今回の締結式はオンラインを利用した交流の可能性を感じさせるものもあったと思います。実際に現地に行くことなく

オンラインで様々な情報収集やストリートビューなどを利用してその地域を歩く疑似体験をすることも可能です。また、児童生徒は事前の調べ学習の方法として、インターネットも利用しています。無論自由に行動ができるようになれば、現地に足を運び、現地の空気を肌で感じる必要がありますが、それまでは、オンラインによる交流を進めていくことも一つの手段と考えます。

まずは、稲城市の姉妹都市・友好都市がどんなまちなのかを市民の皆さんに知っていただくために、私たちも様々な媒体を使って情報発信に努めていきたいと考えています。

最後に、交流協会は、どなたでも入会できます。姉妹友好都市の市民との交流がしたい方、どのようなことができるかわからないが楽しそうだなと感じていただけた方は、ぜひ、一緒に活動してみませんか。



理事 寺島 彰

私が稲城市の姉妹友好都市交流活動に関わろうと思ったきっかけは、稲城市を詳しく知りたい、という思いからでした。

稲城に住み始めたのは、平成30年で、理事の中では最も稲城歴の短い新参者です。東京で就職し、世帯をもって最初に選んだ街が稲城でした。正直、東京に稲城市があることすら知らなかったのですが、家を探しているときに、23区に近く、空と山と森が見える場所を選んだところ、それが稲城との出会いでした。岐阜出身のわたしにとって、東京いうと、スプロールが進み、家と道路ばかりの平

坦なところだと思っていたのですが、想像と違って自然豊かな場所でした。子育てを始めたのも稲城です。鳥を始め、虫やたぬきなど身近に動物がいる場所で子育てがしたいと思っていた私にとって大変理想的な街でした。そんな、稲城市をもっと知りたい、その市政に関わっていききたい、そう思い始めたときにあったものが、交流協会設立準備会でした。

姉妹友好都市活動という、とにかく海外の都市との交流活動を重点的にすすめるイメージが強いですが、稲城市の取り組みが他と異なる点は、稲城市内の在住外国人を意識した取り組みを掲げているところです。諸外国から日本に就労、留学、結婚で移住した外国の方が、住んでる地域の方々と交流し、住みやすい街にしておくことは、一筋縄でできることはありません。しかし、それを支援する取り組みは、行政を始め十分でないのが実情です。学生時代から、留学生の友人と交流し、私

自身も国際結婚をしており、海外で暮らすことの大変さを知っていました。そこで、この姉妹友好都市の活動に参加し、より稲城に住みやすい街にしたいと思ったのです。

現在、私は地域交流委員会に所属しています。地域交流委員会は、稲城市在住外国人の方を対象に、交流事業を展開する取り組みをしております。本年度は、私が主催する地域防災活動をテーマに尽力してきました。災害はどんな環境の方も避けられないものです。ただ、国によっては「防災」という概念がない国もあります。つまり、在住外国人にとって、日本視点での一律な防災周知・活動は身近に感じるできない可能性があります。在住外国人視点で、災害から身を守るためにはどんな取り組みが必要か、ゼロから考える活動を目指しています。今後は、稲城市だけでなく、姉妹友好都市との連携を通して、過去の教訓の伝承や在住外国人主体の防災活動へ

と昇華させていきたいと思っています。

また、地域交流委員会の副委員長を務める傍ら、広報委員の委員長として会報誌の作成や名刺の作成など、交流協会の活動を広く知ってもらうためにはどうか、という取り組みをあれこれ模索しております。ぜひ、この会報誌を読んでくださった皆様も、一緒に姉妹友好都市を盛り上げる一員になりませんか。



理事 中村 燈

「海外の街と姉妹都市になる。」
この長年の夢が実現するにあたり、本当に多くの皆様の熱い思

いのご尽力があったことと思います。まずは、フォスターシティとの姉妹都市提携、誠におめでとうございます。

私自身は平成29年、平成30年と「稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会」の委員長を務めさせていただき、交流協会の事業内容及び組織体制、運営方法等について検討を進めてきました。準備会においては、平成27年の「稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議」当初からの検討に携わってこられた角田亨先輩（本会顧問）から、「海外との姉妹都市提携に向けて夢が膨らんでいくような、わくわくするような意見を引き出してほしい」とご指導いただき、皆様から具体的な構想をいただいていたりました。

一方、交流協会としては、海外姉妹都市交流だけでなく、既存の国内姉妹都市・友好都市との交流、また地域における国際交流も担っていかうということとなり、組織体制や運営の在り方を検討しまし

た。その結果、「海外交流委員会」「国内交流委員会」「地域交流委員会」という3委員会制を取り、各委員会に所属する会員が、それぞれ事業を構築していくという会の基本体制を整備することができました。

令和2年によりやく交流協会を設立することができましたが、コロナ禍もあり、事業の実施についてはまだこれからというところで

す。私は、「国内交流委員会」「地域交流委員会」の2つの委員会に所属させていただいており、地域交流委員会では外国人等を対象とした稲城市内のウォーキングツアーを企画しています。この魅力的な稲城の街の中で、国籍を超えた繋がりが生まれ、笑顔が広がっていくような事業にしたいと考えていますので、奮ってご参加いただけますと幸いです。

私事ですが、準備会当時に第二子、そして昨年は第三子を出産しました。まだまだ手がかかる子供たちを抱えながらですが、交流協会に

についてもじっくりと育んでいきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



理事 中家 敬士

この度は、稲城市姉妹都市友好都市交流協会設立1周年大変おめでとうございます。思い起こせば、稲城市では女満別町（大空町）と国内で初めて姉妹都市の提携をしました。平成5年に青少年委員、体育指導員（スポーツ推進委員）、体育協会の3者により視察して参りました。その後数回訪町し交流を深めています。平成27年4月に「友好都市提携検討市民会議」が

設置され稲城市体育協会からの推薦により委員として参加し、相馬市並びに野沢温泉村との友好都市の提携に向けての経緯の説明を受け交流事業の検討と、視察の実施により提言を市長に提出し、その年の8月18日に相馬市と、11月17日に野沢温泉村との友好都市協定の締結式が行われました。

引き続き海外都市との姉妹都市提携候補予定地について、準備会を経て10月に「稲城市海外姉妹都市提携市民会議」が設立されフォスターシティ市を候補地とした経緯の説明を受け多岐にわたり検討しましたが結論に至らず、翌平成28年6月に従来の委員の他に公募市民を含め「稲城市海外姉妹都市検討市民会議」が設置され、フォスターシティ市を候補地として作業部会を置き他候補地も含め多方面にわたり検討しました。又市民会議の代表の一員として、現地視察を経て最適地であるとの結論において、今後市民間で交流出来るよう交流協会の立ち上げを添えて

市長に提言し平成29年1月18日に終了しました。

令和2年9月27日に晴れて交流協会が設立されました。令和3年7月27日にフォスターシティ市と姉妹都市協定締結式が行われ6年の歳月を経て今日に至りました。

国内外の市民と文化、スポーツのみならず様々な交流によりお互いの歴史や文化に理解を高め末永く交流出来ることを希望いたします。



理事 原 忠男

交流協会理事の原 忠男です。

私は会社員時代に、USAのロスアンジェルスに4年程駐在しており、サンフランシスコを含む、

カリフォルニア州を拠点に活動しておりました。そんなご縁があり、平成28年頃、市長より「フォスターシティ市と姉妹都市を結ぶ構想があるので協力して欲しい」とのお話を頂き、“私の海外での経験が地域のお役に立てるなら”と、交流協会の前身の「海外姉妹都市推進委員会」に参加させて頂きました。

平成29年1月には他のメンバーと4人で現地視察にも参加させて頂きました。フォスターシティ市はサンフランシスコ空港からも車で30分足らずで、風光明媚なラグーン（水郷）を有するウォーターフロント都市で、サンフランシスコのベッドタウンでもあります。人口は約3万人で、古い建物を新しく建て替える再開発が進んでおり、治安も良く、住みやすい新しい市と言う印象を持ちました。教育にも力を入れており、様々な国から来た子供達への語学教育もきっちり出来ていました。

令和3年7月に、稲城市とフォスターシティ市が姉妹都市提携の調印もWEBではありましたが、執り行われ、晴れて海外初の姉妹都市が生まれました。

稲城市にとっても、言語が「英語」、訪問も「直行便」があり、治安面でも「安全」と言う、好環境ですので、海外姉妹都市を結ぶのにフォスターシティ市はピッタリの都市です。これからは民間ベースで、様々な交流が期待できます。例えば、小中学生の子供達はペンパルや夏休みを利用した相互訪問、高校生になれば交換留学生やホームステイ等、語学研修を含め、様々な学びの場が得られると思います。社会人は、スポーツ交流から文化交流まで幅広く、双方で交流が可能になります。隣接のサンフランシスコでは、日本祭りも盛んなので、それに稲城から踊りや太鼓で参加することや、お茶やお花で日本文化を紹介することも出来ます。

稲城市とフォスターシティ市に姉妹都市と言う「橋」は架かりました。市民の多くの方がこの橋を通しての交流を期待しております。



理事 藤島 亮子

藤島です。稲城に住むようになってもうすぐ15年ですが、自然豊かでくらしやすいこの街が大好きです。特に中央公園の山道や城山の中を愛犬達と一緒に歩くことが大好きです。また、日常の買い物などは一通り稲城市内で揃うので、苦手な都心にわざわざ出かける必要がないことも嬉しいのです。

現在ラポパーティという国際交

流を目的の一つとした英語だけでなくコミュニケーション力や企画力、創造力、社会力などを身につける教室の指導者をしています。その活動の中で外国の方のホームステイの受け入れや、中学生の生徒達の北米1か月ホームステイの斡旋をしています。他にも日本に住む留学生などを招き、日本の文化紹介をしたり、外国の事を学んだりするイベントを開催しています。子ども達が異文化交流を体験する事で視野やものの考え方が広がり、飛躍的に成長していく姿を見て嬉しく思っています。

この度、稲城市がアメリカ、カリフォルニア州のフォスターシティと姉妹都市を締結すると聴き、自分の経験が活かせる場があるのではないかと思い理事に立候補しました。フォスターシティを始めさまざまな姉妹都市や友好都市との交流活動を子ども達が積極的に行う事で将来の稲城市をリードしていくような人間に育って欲しいと願っています。



稲城市姉妹友好都市を紹介するパネル展

8 事業紹介

【パネル展を開催しました】

令和3年1月26日(火)から2月9日(火)まで、稲城市役所および中央文化センターのロビーにおいて、稲城市の姉妹都市である北海道大空町、友好都市である福島県相馬市・長野県野沢温泉村、そして今後姉妹友好都市の締結が予定されているアメリカ合衆国カリフォルニア州フォスターシティ市との交流の歴史や風景、街の様子などを写真で紹介しました。

多摩テレビでも放映され、多くの方にご覧いただきましたが市民の方からは「各自治体と稲城市が、どのようにして交流が生まれたのかなどを知ることができた」との声をいただきました。

「子どもカメラマン 神野天杜（たかと）くん写真展を開催しました」

令和3年2月1日（月）から3月19日（金）まで、地域振興プラザ1階において、姉妹都市である北海道大空町の神野天杜くんが撮



パネル展 神野天杜くん写真展

影した人物・風景・乗り物など、数多くの作品から力作を厳選して展示しました。

神野天杜くんは、姉妹都市交流が縁で結婚されたご両親、父孝志さん（大空町）、母里美さん（稲城市）のお子さんとして大空町で生まれ育ちました。そして、2歳

になる頃からカメラに興味を示し、ご両親のカメラを手に地元のお祭りや家族写真を撮り続け、7歳の誕生日には「誕生日プレゼント3年分」として、一眼レフカメラをおねだりして買ってもらったそうです。それから週末には必ず庁内の催しに出向き、熱心に撮影を続け、小学校2年生の時には美幌峠をテーマにしたフォトコンテストのジュニア部門でグランプリを受賞するまでになりました。

しかし免疫の異常による血液の病気を患い、9歳という短い生涯を閉じることになりましたが、それまでに撮り貯めた写真は、実に8千枚を超えるということです。天杜くんの写真展のことは、令和3年2月20日（土）の読売新聞でも取り上げられて大変な反響があり、市外からも多くの方々が鑑賞に來られました。

【交流協会ロゴマークが決定しました】

稲城市姉妹友好都市交流協会のロゴが決定いたしました。ロゴマークは、稲城市内でイベントや里山活動をされておられますデザイナーの坂本太郎さんに作成をお願いいたしました。

決定したロゴマークは、稲城市の地形にグローバルを表す地球とIIFA (Inagi Inter-city Friendship Association : 稲城市姉妹友好都市交流協会の英語名の

略称)のAに日本を表す日の丸で構成されている素晴らしいデザインです。みなさまにも親しまれるロゴとして、今後、交流協会のホームページや各種印刷物など、様々なシーンで活用してまいります。



稲城市姉妹友好都市交流協会
Inagi Inter-city Friendship Association

稲城市姉妹友好都市交流協会 ロゴマーク



フォスターシティ市との姉妹都市提携協定 締結式

「フォスターシティ市と姉妹都市提携を締結しました」

令和3年7月27日（アメリカ合衆国 7月26日）、稲城市地域振興プラザで「日本国東京都稲城市とアメリカ合衆国カリフォルニア州フォスターシティ市との友情と協力のための姉妹都市提携協定」締結式が執り行われました。締結式は新型コロナウイルスの状況を鑑み、オンライン形式で両市の会場をつなぎ、開催されました。

稲城市姉妹友好都市交流協会からは、安東道正会長、中井敏生副会長、岡田昭人海外交流委員長が出席しました。

締結式では、青少年の交流・文化の発展・観光など幅広い分野における交流を通じ、持続可能な発展目標の達成と、相互の理解・連携を深めることを確認し、稲城市の高橋勝浩市長、フォスターシティ市のゲハニ市長、稲城市姉妹友好都市交流協会の安東道正会長、フォスターシティ姉妹都市協会スティーヴ・オカモト会長が、協定書に署名を行うとともに、画面越しに固く握手を交わしました。

稲城市姉妹友好都市交流協会としましては、海外交流委員会主導のもと、年齢・性別を問わず、多くの稲城市民の方とフォスターシティ市民の方が交流できるよう、推進してまいりたいと考えております。今後も、会員の皆様および市民の皆様のご協力をいただきたいと存じます。

【姉妹都市大空町産の農産物販売所を訪れました】

令和3年10月22日～24日に開催されました、大空町の農産物販売所を交流協会会長と理事が訪れました。

本来は「Iのまち稲城市民まつり」で販売を予定していた農産物でしたが、コロナウィルス感染症の影響により、市民まつりが中止となり、農産物販売所にて期間限定で販売されました。販売された農産物は、実が大きく立派なものばかりで、多くの市民の方が買い求めにいらっしやいます。



一般財団法人めまんべつ産業開発公社の方々との懇談

した。短時間ではありましたが、一般財団法人めまんべつ産業開発公社の方々と有意義な懇談をすることができました。

今後、交流協会としても、姉妹都市である大空町の方々との交流を更に進めていくよう努めて参ります。

【在住外国人向け地域防災活動・消防署との打ち合わせを実施しました】

地域交流委員会では、今年度事業のひとつとして在住外国人向け地域防災活動を推進しています。

その活動の一環として、交流協会として外国人向けにどのような地域防災活動ができるか、その期待とニーズを調査するために、稲城市消防本部と稲城市役所市民協働課と打ち合わせを実施しました。

打ち合わせの中では、交流協会に期待する地域防災活動について、ご紹介頂き、また、交流協会で作成をしているオリジナルハ

ザードマップについて意見交換が行われました。また、11月開催の防災訓練に向けて、交流協会としてガイドツアーを実施することが検討されました。

【交流協会オリジナルハザードマップを作成しました】

地域交流委員会では、在住外国人向け地域防災活動として、交流協会オリジナルハザードマップを作成しました。在住外国人をはじめ、誰でも視覚的に危険箇所がわかりやすいように危険箇所の写真のマッピングや、ハザードマップをもとにしたクイズ、また、役立つ防災情報を掲載するなど、ハザードマップや防災に興味を持ってもらえる仕掛けがなされています。また、稲城市の外国人構成比率を加味して、多言語バージョン（英語、中国語、韓国語、ベトナム語）を作成しました。今後、防災訓練や地域防災活動をすすめる

中で、中核となる資料として広報を進めていく予定です。資料は交流協会ホームページよりダウンロードできますので、是非ご覧ください。

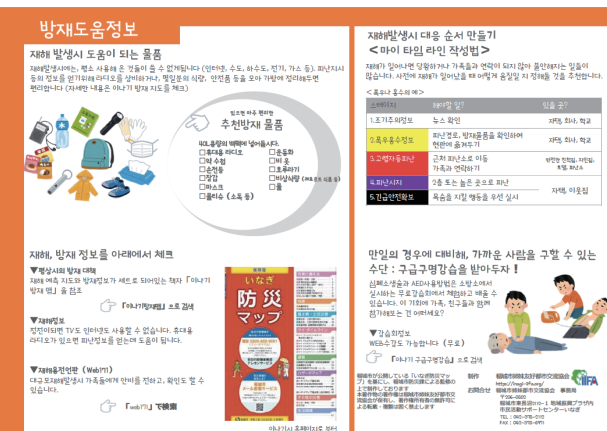
【稲城市主催の防災訓練にて、外国人向けガイドツアーを開催しました】

令和3年11月7日（日）にふれんど平尾にて開催された稲城市防災訓練にて、ガイドツアーを実施しました。稲城市にお住まいの外国人の方数名が参加してください、起震車体験や災害用伝言ダイヤル体験などのほか、防災備蓄品の説明を行いました。

また、交流協会ブースでは、多言語で作成した協会オリジナルのハザードマップや交流協会のパンフレットを配布し、興味深く質問して下さる方々もおられ、成功裏に終了いたしました。今後も外国人への防災情報の周知活動を協会にて進めていきたいと考えておま



オリジナルハザードマップ 日本語版



オリジナルハザードマップ 韓国語版



オリジナルハザードマップ 英語版



オリジナルハザードマップ 中国語版



会場に設置した交流協会ブースにて委員スタッフと理事にて、
協会の紹介・ツアーを実施しました



9 今後のイベント情報

詳しいイベント情報は、当協会ホームページにてお知らせします。

「フォスターシティ市とのペンパルプログラム参加者募集」

フォスターシティ市の市民の皆さんとのペンパル企画しました。フォスターシティ市のペンパルと交流してみませんか。

▽期間 令和4年4月～7月

▽対象 4月からの学年で高校生以下の学生（高校生・中学生・小学生）

▽参加費 無料（ただし通信費やパソコンなどの機材は各自負担）

▽定員は50名程度。応募状況によりお申込みいただいても参加できない場合があります。

▽募集締切 4月8日（金）

▽その他インターネットやパソコンなどは各自でご準備ください。

「大空町の大豆を使用した味噌づくり体験」

大空町の大豆を使用した味噌づくりの体験会を予定しています。

▽日時 令和4年秋頃（予定）

「稲城の魅力発見ウォーキングツアー」

稲城市内の名所を散策し、稲城の魅力を発見しましょう。年3回予定しているウォーキングツアーは、それぞれ異なる地区を案内します。

▽期間 初夏・秋・冬の年3回

▽対象 稲城市民および在住外国人

「防災訓練ガイドツアー」

稲城市が主催する防災訓練にて、市内在住の外国人の方向けにガイドツアーを実施します。会場の交流協会受付にて交流協会が作成した多言語版のハザードマップ

（日本語・英語・韓国語・中国語・ベトナム語）を配布します。

▽日時 令和4年秋頃（予定）

▽対象 稲城市に在住している外国人

10 会員募集

交流協会の

会員になりませんか？

稲城市姉妹友好都市交流協会では当協会の趣旨・目的にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。

詳細や入会方法は交流協会

公式ホームページをご覧ください。

さい。

会員種別・会費

正会員：委員会に所属し、総会での議決権あり

個人	1口 2,000円
団体	1口 10,000円
家族	1口 3,000円 (同居家族に限定し、一律とする)

賛助会員：当協会の事業を賛助するために入会し、総会への出席不要

個人	1口 1,000円
団体	1口 5,000円

※年度単位での会費（年度途中での入会でも同額）

※年度途中での退会でも会費の返金はいたしません。

本会報誌へのお問い合わせ

稲城市姉妹友好都市交流協会 事務局
〒206-0802

稲城市東長沼2-112-1 地域振興プラザ1階 市民活動サポートセンター
いなぎ内

市民活動サポートセンターいなぎ

TEL 042-378-2112

FAX 042-378-6971

本会報誌で掲載する文章および写真等構成物、並びに本会報誌の著作権は稲城市姉妹友好都市交流協会が所有します。無断での転用・転載・複製並びにそれに準ずる行為を禁止いたします。



協会
Instagram



協会
Facebook



協会
ホームページ